

## 『海』第三十号の作品について

『海』のホームページには、「二ユース」のコラムを設け、『海』の作品に対していただいた批評や感想などの内容の要旨を掲載し、同人個々の参考になるようにしています。

第三十号（通巻第九十七号）の作品に対しお寄せいただいた感想などの一部（抄）を、左記に掲載させていただきました。

「ご意見をいただいた各位（お名前は略）に、心から感謝申し上げます。」

### ◇三十号発行記念小特集の部

- ・『海』の過去、現在、未来という内容に、脈々と続いていることが実感できた。
- ・『海』の文学道に対する決意を見た。
- ・群 青の「海が」は、無駄のない言葉での刈り込まれた作品。味わい深い。

### ◇詩の部

- 群 青「出かけるまえに踊りたい」
- ・「ときどき母がやってきてはなすんだという」は、I、IIだけでなくシリーズとして書いてほしい。
- ・そうすれば、読み手の興味をより引き、より深い世界が表現できるだろう。

### ◇散文詩の部

- 天津孔雀「密室薔薇言葉」ほか
- ・きつちりとしたシアトリカルな言葉で綴られている。
- ・どこか懐かしい、人間の業の広さと深さを味わった。
- ・混沌として、純な詩魂である。

### ◇俳句の部

- 松本西夏「春愁」
- ・碧空に十日抱かれ桜散る ほか二句がよかった。

### ◇出版の部

- 「天津氏 写真集を刊行『天津孔雀の朗唱演戯』」
  - ・見開きでの紹介で、とても印象に残った。
- ### ◇招待席の部
- 高野義裕「金沢おでん」
  - ・とても印象に残った。

### ◇小説の部

- 有森信二「ワンモアタイム」
- ・子供の突然の死に際しての切迫感が、強く描かれている。
- ・作者が書き残しておきたかった作品だろう。抑えた文章で肅々と記され、それだ

けに胸を打たれる。  
温かみと、清らかともいえる天上の響きがある。

### 高岡啓次郎「疲れた女神」

- ・幻想的な作品。面白く読んだ。
- ・一枚の絵に魅了された男と、そのモデルになった女の怨念を、巧みに描いている。
- ・心理描写、風景描写、ストーリーの展開がすばらしい。

### 井本元義「贖賞庭園」

- ・骨太い、純文学作品。感動した。
- ・外界を拒み、日常や俗世から隔絶された空間が構築されている。
- ・深淵な闇と、それを突き抜けた、あるかなさかの光の希求に溜息が出た。
- ・想像力の世界で、見事に作り上げた作品
- ・堂々の耽美の世界を堪能した。

### ◇『海』全体の部

- ・第三十号という節目を迎えての、同人のたゆまぬ努力に、頭が下がる。
- ・年二回、きちんと発行していることに敬意を表する。

（まとめ・A）